

北海道教職員組合が町にマスク 1,500 枚贈る

北海道教職員組合の込山哲也さん(胆振支部書記長)らが5月29日、総合福祉センターで町にマスク1,500枚を寄贈しました。

胆振東部地震の発生以降、同組合には今も義援金が寄せられているといいます。同組合は、義援金の中から外出時に必要なマスクを被災3町(厚真・安平・むかわ)に届けることにしました。

宮坂町長は、「影響を受けている教育現場などで、ありがたく使わせていただきます」と感謝しました。



宮坂町長にマスクを手渡す関係者たち

経済団体が町に要望書 地域活性化商品券発行の補助金要望



宮坂町長(中央)に要望書を手渡す寺坂会長(左)と宮田組合長

とまこまい広域農協(宮田広幸組合長)と町商工会(寺坂文秀会長)、町地域活性化商品券実行委員会(小納谷誠司実行委員長)は6月5日、宮坂町長に「町地域活性化商品券発行に関する補助金の要望書」を提出しました。

地域活性化商品券は、長期化が懸念される新型コロナウイルス感染症の感染拡大による消費の落ち込みの回復と、胆振東部地震の生活再建の後押しが目的です。

要望書によると、今年9月から来年2月までを有効期間とし、発行額は1億2,500万円、発行数は12,500口で、販売額は1口1万円(プレミアム率25%)としています。寺坂会長らは「地域活性化商品券を発行するため、ぜひ、ご理解をお願いします」と町に協力を求めました。

上厚真小が地震を想定した避難訓練

上厚真小学校(井内宏磨校長、95人)は6月9日、地震を想定した抜き打ちの避難訓練を行い、児童たちは迅速にグラウンドに避難しました。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で6月1日に授業が再開したため、毎年5月に行う訓練の時期がずれました。

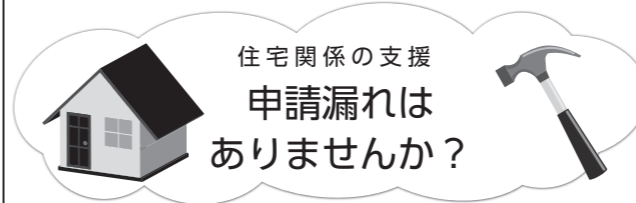
訓練は、震度5の地震が発生したという想定。警報が鳴り、地震を告げる校内放送が流れると、児童たちは先生の指示に従い机の下で一時避難し、防災頭巾をかぶってグラウンドに逃げました。

井内校長は「本当の地震があっても、避難訓練を思い出して、落ち着いて行動してほしい」などと呼びかけました。



先生の指示でグラウンドに避難する児童たち

胆振東部地震 被災者支援情報



●厚真町住宅リフォーム補助(地震)

り災状況が半壊および一部損壊の住宅の所有者、管理者、占有者が行う復旧工事に要する費用の一部を補助します。

○対象者
地震発生時の住宅の所有者、管理者または占有者
※仮設住宅などへの入居の有無は問いません。
※管理者または占有者は所有者の承諾を得たものに限ります。
※居住実態のある住宅に限ります。

○対象工事
屋根、柱、床、内外壁、基礎、梁、ドア、窓、内装仕上げ、上下水道の配管、ガスの配管、給排気設備の配管、電気・電話線・テレビ線の配線、トイレ、浴室
※附属建築物(外構工事や物置、車庫等)や、併用住宅の非住宅部の復旧に関する工事は除外

○工期
令和3年3月31日(水)までに完了する工事

○補助金額
対象工事費から30万円を控除した額の30%
※半壊の場合で住宅応急修理支援制度を活用した時はその額と30万円を控除した額の30%

○補助上限
50万円

○申請に必要なもの
[交付申請時]
・交付申請書
・工事見積書の写し(すでに工事が完了している場合は内訳が分かる書類)
・り災証明書の写し(半壊の方で、住宅応急修理支援制度を活用した方は不要)

[報告時]
・交付完了報告書 ・領収書の写し
・工事完成写真

○受付期間
令和3年3月31日(水)まで

○受付窓口・問い合わせ
建設課 建築住宅グループ ☎27-2325

●住宅再建・修繕に係る災害義援金

被災した住宅の再建・修繕費用について、災害義援金の支給申請を受け付けています。住宅の再建・修繕を行った方で、申請がお済みでない場合は、下記の内容をご確認の上、申請してください。

[住宅再建に係る災害義援金]

○対象
町内で新たに住宅を建設・購入した場合

○配分金額

被害区分	配分金額
全壊・大規模半壊・半壊	100万円

[住宅修繕に係る災害義援金]

○対象
外壁、内装、床、ドア、浴槽、トイレ、電気配線工事、水道配管工事などの修繕費用が1万円以上の場合
※家財、物置、舗装工事、外構工事などは対象外
※被災住宅応急修理の支給を受けている方は、その分を費用から控除して算定
※支給額は万円未満切り捨て

○配分金額

被害区分	配分金額
全壊・大規模半壊・半壊	限度額50万円
一部損壊	限度額15万円

○申請に必要なもの
[共通]
・印鑑(認印) ・預金通帳の写し
・申請者の本人確認ができるもの(運転免許証や健康保険証など)
・り災証明書(り災者区分が「物件居住者」になっているもの)

[住宅再建]
・契約書 ・領収書

[住宅修繕]
・修繕の内容が確認できるもの(見積書・請求書・契約書など)
・領収書
・被災住宅応急修理の証明書(被災住宅応急修理制度を利用した方)

○受付期間
令和3年10月5日(火)まで

○受付窓口
役場庁舎別館

○問い合わせ
総務課 財政グループ ☎27-2481

上野地区に厚真地区農産物集出荷貯蔵施設を建設



施設の完成を願ってあいさつする
とまこまい広域農協の宮田組合長

とまこまい広域農業協同組合(宮田広幸組合長)は6月17日、上野施設団地で、「厚真地区農産物集出荷貯蔵施設」を着工しました。農産物を一時保管して品質を維持し、安定供給と物流の効率化を図る拠点施設に整備するもので、来年2月末に完成する予定です。

施設は、鉄骨造平屋建て延べ床面積1,700㎡で、総事業費約5億5,000万円。米1,600tと、作付けが増えているカボチャ566tの低温貯蔵が可能になります。

この日の地鎮祭には、農協職員や施工業者のほか、町長、町議会議員、土地改良区、自治会など約40人が出席し、工事の安全と無事を祈りました。

終了後、宮田組合長は「品質を損なうことなく、消費者への信頼向上に貢献したい」とあいさつ。宮坂町長は「新型コロナウイルス感染症は、さまざまな業種に影響が出ています。この施設によって、生産地としての知名度が、さらに高まることを願っています」と期待を込めました。

前町固定資産評価審査委員長 畑嶋さんに感謝状贈る

長年にわたって町行政に貢献したとして、町は6月22日、町固定資産評価審査委員長を務めた畑嶋賢蔵さん(59歳、東和)に感謝状を贈りました。

畑嶋さんは、農業を営む傍ら平成23年から3期9年にわたり、町固定資産評価審査委員会委員と同委員会の委員長を務めました。畑嶋さんは「まさか、感謝状をいただけると思っていませんでした。地盤が変動した胆振東部地震もありましたが、無事に責任ある任務を果たすことができ良かったです」と感想を述べました。



宮坂町長から感謝状が贈られ、安どの表情を浮かべる畑嶋さん

山本浄化興業株式会社がフェイスシールド寄贈

山本浄化興業株式会社(苫小牧市)の山本正幸会長と山本紘之社長が6月22日、役場を訪れ、新型コロナウイルス感染症の飛沫感染を防止するフェイスシールド360枚を寄贈しました。

同社は、胆振東部地震後にも町の災害廃棄物処理に尽力され、不足が懸念されているフェイスシールドを贈ることにしたそうです。町は、町内の福祉施設や学校などに配り、感染拡大の防止に役立てます。



住民課の中村参事にフェイスシールドを贈る山本正幸会長(右)

初夏の厚真を花で彩る 市街地と野原公園^{やげん}で花壇を整備

夏日を記録した6月10日、市街地が色とりどりの花に包まれました。

厚真大橋の交差点付近にある8区画の大型花壇では、厚真建設協会(鈴木英毅会長)の会員約20人が、花壇を作りました。オレンジ色のマリーゴールドや青紫色のロベリアなど、8種類880株を植えました。鈴木会長は「花壇を見て、一瞬でも心が和んでくれたらうれしい」と話しました。

また、中心部では、「市街地環境整備事業」が行われ、花フレンズや商工会女性部など約40人が協力しました。参加者は、マスクを装着し、額に汗をかきながら86カ所の花壇に赤色やピンク色のペチュニアなど約1,000株を手際よく植え、口ぐちに「マチが華やかになった」と笑顔を浮かべました。

一方、6月15日には、地元の自治会や花フレンズ、町職員約30人が、国道235号沿いの浜厚真野原公園^{やげん}で、大型花壇を整備しました。花壇は、駐車場の出入り口に2カ所に並んで設けてあり、合計すると長さ100mを超える大きさ。参加者は、1時間半ほどかけてベコニアやマリーゴールド約1,100株を定植。参加者は「今年も、きれいな花壇を作ることができました」と満足した様子でした。



真心こめて花を植える厚真建設協会のメンバー



野原公園花壇の完成後、記念撮影する参加者たち

北海道総合通信局 「電波の日」表彰を町が受賞



表彰状を手にする宮坂町長、高野局長(右隣)と関係者たち

町は6月16日、北海道総合通信局の高野^{こうのきよし}局長から「電波の日」の表彰を受けました。胆振東部地震で開局した「あつま災害エフエム」が、災害・生活支援情報などを発信して町民の安心や安全の確保に貢献したことが評価されました。

6月1日は「電波の日」と定められ、北海道総合通信局が、電波利用や情報発信の発展に貢献した個人や団体を表彰しています。70回目の今年は、道内の1個人3団体が選ばれました。6月1日に札幌市で行われる予定だった表彰式は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止。自粛緩和を受けて、高野局長が賞状を届けました。

高野局長は「地震がきっかけで、指定災害機関としてラジオの役割が見直されるきっかけになりました」と話すと、宮坂町長は「ボランティアの皆さんに感謝しています。町民の心の励ましになっていて、改めてラジオの力を感しました」と感想を述べました。